

---

## 西南支部ニュースレター（49号）

2019年11月7日

---

### <内 容>

1. 2019年度支部例会開催のお知らせ
2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会の共催について
3. 2019年度支部総会開催のお知らせ
4. 2019年度支部役員

---

### 1. 2019年度支部例会開催のお知らせ

2019年度支部例会として、沿岸海洋研究会および水産海洋学会と共催して、以下のとおり、九州沖縄地区合同シンポジウムを開催します。

2019年度 九州沖縄地区合同シンポジウム  
(日本海洋学会西南支部・日本海洋学会沿岸海洋研究会・水産海洋学会合同シンポジウム)

#### 「魚礁を取り巻く海洋環境と漁場整備技術」

共催：日本海洋学会西南支部，日本海洋学会沿岸海洋研究会，一般社団法人水産海洋学会

日時：2019年11月27日（水） 10：30～16：40（受付10：00）

場所：佐世保市労働福祉センター（佐世保市稲荷町2番28号）

コンビーナー：杉松宏一・樽谷賢治（水産機構西水研）・井上誠章（水産機構水工研）・  
滝川哲太郎（長崎大学）

#### <プログラム>

10:30～10:35 挨拶

10:35～10:40 趣旨説明：杉松宏一（水産機構西水研）

座長： 樽谷賢治（水産機構西水研）

10:40～11:20 【基調講演】魚類の浮魚礁利用：五島列島周辺漁場の例

○松下吉樹・Khyria Swaleh Karama・高橋千代・中村乙水・河邊玲（長崎大学）

11:20～12:00 【基調講演】洋上風車の魚礁効果（総説）：魚礁としての利用可能性と課題

○中田英昭（長崎大学名誉教授）

—昼休み(日本海洋学会西南支部総会)—

座長： 井上誠章（水産機構水工研）

13:30～13:50 山口県萩市見島沖八里ヶ瀬における潮流と湧昇流推定

○滝川哲太郎（長崎大学）・後藤敏光（パスコ）・濱野明（ACMS コンソーシアム／水産機構水大校・名誉教授），中村武史（水産機構水大校）

13:50～14:10 堆近傍の粒子物質輸送過程に関する数値的研究

- 古市尚基・大村智宏（水産機構水工研）・松村義正（東京大 大気海洋研）  
14:10～14:30 鹿児島県甬島周辺海域に設置した海底地震計を簡易漁礁と見なした場合の生物相  
山脇信博・○筒井英人（長崎大学）・高橋孝三（九州大学/北星学園大学）・桑野和可・  
鈴木利一（長崎大学）・西田史朗（奈良教育大学）・合澤格・楠本成美・保科草太・木下幸・  
八木光晴・森井康宏（長崎大学）  
14:30～14:50 ドローンと機械学習を用いた海岸漂着ごみ定量化手法の構築  
○森田翔平・種田哲也・加古真一郎（鹿児島大学）

14:50～15:00 休憩

座長： 滝川哲太郎（長崎大学）

15:00～15:20 宮崎県における浮魚礁について

○渡慶次力, 堀江ひかり, 林 悠真（宮崎水試）

15:20～15:40 CPUEの標準化手法を応用した対馬周辺海域における人工漁礁の効果範囲推定

○井上誠章（水産機構 水工研）

15:40～16:00 広域漁場整備のための周防灘マコガレイの生態系ネットワーク評価

○杉松宏一（水産機構西水研）・佐藤允昭・古市尚基（水産機構水工研）・

遠藤次郎（アルファ水工）

16:00～16:20 人工魚礁の利用実態把握から効果予測に向けて

○桑本淳二（水産土木センター）

総合討論 16:20～16:40

座長： 杉松宏一（水産機構西水研）

#### 【開催趣旨】

魚礁は、周辺に広く分布する魚類を集める蝟集効果、稚仔魚の保護・育成場を提供する効果、食物連鎖を活発にして生物の生産性を高める機能などがあるとされ、多くの人工魚礁が日本各地に設置されてきた。しかし、その効果については定性的な評価に留まっており、定量的な検討は十分になされていない。

近年の沿岸域は、水産資源の低迷、漁業人口の減少、漁業の省エネ化、地球温暖化への適応など、水産業を取り巻く情勢が変化してきている。持続的かつ効率的な沿岸漁業を確立するためには、魚礁の有効性について改めて検証する必要がある。そのためには、魚礁を取り巻く海洋環境の詳細や漁業による利用状況、魚礁機能が発現するメカニズムの解明とその定量化、効果的な魚礁の形状・規模と配置方法などが必要とされるが、これらの検証を可能とする調査データや知見の蓄積は未だ少ない。

このような背景から、本シンポジウムでは魚礁を取り巻く海洋環境調査と漁場整備技術の現状を整理し、豊かな生態系を持続的に利用するための漁場整備の方向性や今後どのような研究を行うべきかを議論することを目的とする。対象とする魚礁は、人工礁、天然礁、浮魚礁を問わない。また、周辺海域の環境変化に伴う漁場（例えばフロント）や藻場の形成などに関する報告をもとに、沿岸域から沖合域までの海洋・漁場環境をより広く総合的に議論する。

問い合わせ先：

〒851-2213 長崎県長崎市多以良町 1551-8

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

西海区水産研究所 有明海・八代海漁場環境研究センター 環境保全グループ

杉松宏一

電話：095-860-1622

E-mail: [sugimatu@affrc.go.jp](mailto:sugimatu@affrc.go.jp)

## 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会の共催について

長い間、西南支部例会は海洋気象学会および水産海洋学会との3者共催で開催されてきました。残念ながら数年前、海洋気象学会が活動を停止した後は、水産海洋学会との2者共催の状態となっていました。今年度より、日本海洋学会沿岸海洋研究会が共催に加わっていただけることになりました。同研究会は「沿岸海洋研究」という学術誌を発行していますが、この共催を通じて、例会で発表された研究成果を「沿岸海洋研究」に掲載する契機となります。海洋気象学会との共催時に、合同シンポジウムでの研究発表の一部が同学会の学術誌「海と空」に掲載されていたのと同様です。折しも、「沿岸海洋研究」は今年度後半から on-line journal（冊子は1年に1回発行）になりますので、研究論文は、受理後短い時間でweb公開されます（2年間は沿岸海洋研究会の会員限定という条件付ですが）。沿岸海洋研究会との共催によって、支部例会で発表された研究成果が論文として公表される機会が増え、より活発な研究活動に繋がると期待しています。

## 3. 2019年度支部総会開催のお知らせ

以下の予定で2019年度の西南支部総会を開催いたしますので、参加くださいますようお願いいたします。

1. 開催場所 佐世保市労働福祉センター（佐世保市稲荷町2番28号）
2. 開催日時 2019年11月27日（水） 12:20~13:20（合同シンポジウムの昼食時）
3. 報告  
1) 2019年度事業報告 2) 会計報告 3) その他
4. 議題  
1) 2020年度支部役員 2) 2020年度事業計画 3) その他

## 4. 2019年度支部役員（支部長，副支部長，幹事）

支部長：松野健（九州大学）  
副支部長：山城徹（鹿児島大学）  
事務担当幹事：広瀬直毅（九州大学）  
水産海洋学会担当幹事：滝川哲太郎（長崎大学）  
令和元年度例会担当幹事：杉松宏一（西海区水産研究所）

## 後記

漁礁はそれなりの規模の海中構造物として海洋環境に影響しうるため、私には気になる存在でした。例えるならば、海岸に堤防を作ったり、浅瀬を埋め立てたり、あるいは潮流や海流の発電設備を水中に設置したり、といった人為的な地形改変と似たような印象です。海洋環境の利用と保全のバランスはいつも難しいものです。杉松様（西海区水研）よりこのテーマが提案されたときには、私の知的好奇心も大いに刺激され、大賛成でシンポジウムの開催へと突き進みました。毎年、4官庁会議の開催場所（今年は佐世保）に近いメンバーにシンポジウムの開催を依頼するのですが、いつもいつも斬新な興味深いテーマが出てきて感心しきりです。我々の知らない漁礁の世界に対して、講演者の皆様には様々な角度で切り込んでいただき、多くの方にとって「そんな見方もあったのか」という気づきの場となれば幸いです。

（事務局：広瀬直毅）

---

本ニュースレターに関するご意見や投稿したい情報等がありましたら、下記へお知らせ下さい。

日本海洋学会西南支部事務局  
九州大学 応用力学研究所 大気海洋環境研究センター（広瀬直毅）  
〒816-8580 春日市春日公園 6-1  
電話：092-583-7492 Fax：092-583-7492  
E-mail: [hirose@riam.kyushu-u.ac.jp](mailto:hirose@riam.kyushu-u.ac.jp)

日本海洋学会西南支部ホームページ  
<http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/oed/swb/swb.html>